

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	「我」：創作
Author(s)	塵
Citation	龍南會雜誌, 151: 74-75
Issue date	1913-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6261
Right	

菊池懷古

奴角

守○山○千○尺○與○誰○登○
滿○目○蒼○茫○人○不○見○

曉○色○陰○々○露○欲○凝○
忠○魂○夜○哭○白○雲○層○

六○代○英○魂○竟○未○回○
朝○憑○廟○閣○弔○忠○烈○

千○秋○賜○祀○守○山○臺○
滿○目○長○風○卷○土○來○

四○世○勤○王○誰○匹○儔○
廟○祠○千○歲○表○忠○節○

金○剛○山○上○獨○相○求○
魂○魄○于○今○贊○帝○猷○

春日寄友

東○來○春○色○滿○街○酣○
蝶○逐○落○花○高○也○下○
櫻○雲○天○外○城○樓○峙○
曳○杖○出○家○時○極○目○

行○樂○及○時○正○可○耽○
人○尋○昨○夢○北○還○南○
松○露○池○頭○壘○壁○涵○
不○看○相○識○恨○何○堪○

憶友

獨○座○書○窓○下○

捲○簾○對○翠○微○

榴○花○從○雨○落○
孤○客○天○涯○在○
蒼○々○來○暮○色○

燕○子○切○風○飛○
故○人○夢○裡○稀○
雲○樹○思○依○々○

「我」

塵

義といふに囚はれ人はねに泣かすにぎはだ恐れ迷惑ふ哉
空しかる努力の晝は勞れつゝなよく若葉蟻のつくを見る
憂さごとを買ひても見んと語る人にまづ賣りて見む京の夜歌

大雲は天路をはろに横たはり阿蘇を彼方へ雨降らしゆく
暮れよ暮の鐘を打ちなば雲はとけて流れむ罪の街の光よ
白馬走りしぶきする街静々と君が跡訪ひひじり行きます
天つちも悼み給ふよ三日後なんひつぎまでしとなる雨
恐ろしき塵の世か將た君を抱いて泣くべき時のあらんとぞ思ふ(以上三首夭折したる人に)
「我を奪ふ人もしあらば斧をふるひ世が咀ふまで戦ひて見む

なげやり

三

四

郎

近頃は心和めり嬉しさに、氣取りし事も云ふべくなりぬ
我が顔をつくぐと見て、をかしと云ふ、友に對へる心の和み
空虚なる我が心にも染むばかり音けやけきは母のなみだか！
虫が鳴くあれ虫が鳴くちゝちゝ、旅を思ひて眠られぬ夜
故郷は幾山河の果なりき、歸省思ひて地圖ひらきしも

演説の夜

「國民起て剣を執りて」辯士の鬚につひのせられぬ

創作